



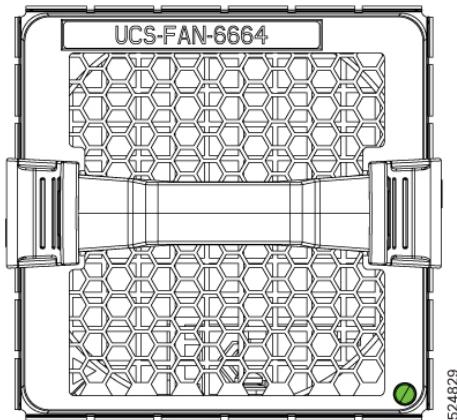
コンポーネントの交換

この章は次のトピックで構成されています。

- 運用中のファンモジュールの交換 (1 ページ)
- 電源モジュールの交換 (3 ページ)
- Small Form Pluggable モジュールの取り付けと取り外し (6 ページ)

運用中のファンモジュールの交換

ファブリックインターフェクトには、システムを適切に冷却するための4台のファンが搭載されています。ファンはコールドエアから空気を引き込み、シャーシ内に送り込み、高温の空気をホットエアに排気します。各ファンには、ファンモジュールの正常性の状態を視覚的に示すステータス LED があります。



すべてのファンモジュールと電源モジュールは、同じエアーフロー方向にする必要があります。そうしないと、エラーが発生してファブリックインターフェクトが過熱し、シャットダウンする可能性があります。モジュールの前面に付いているストライプの色でファンモジュールのエアーフロー方向を判断できます。ファンモジュールにポート側排気エアーフローの青色のストライプが付いている場合、電源モジュールにも同じエアーフロー方向の青色のカラーリングが付いている必要があります。スイッチの過熱を防ぐために、次のようにファンモジュールが配置されていることを確認してください。

運用中のファンモジュールの交換

始める前に

ファンモジュールを交換する前に、次の条件が満たされていることを確認してください。

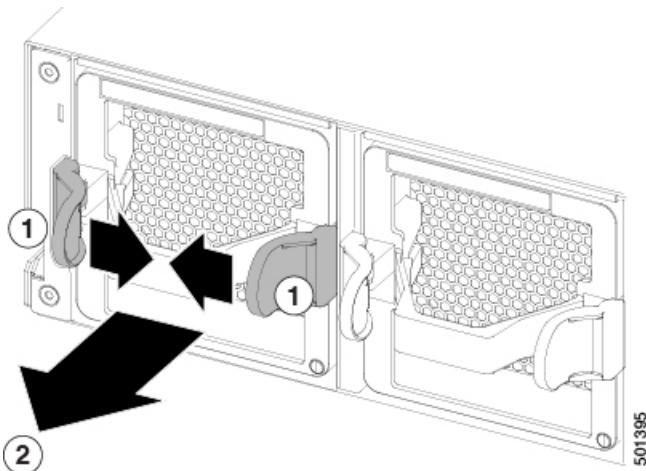
- 他方のファンスロットに4つの作動中ファンモジュールがあります。運用中にファンモジュールを交換するためには、常に、シャーシ内の空気を循環させるファンモジュールが3つ必要です。それ以外のファンモジュールは冗長なため、交換することができます。
- 交換ファンモジュールは、シャーシ内の他のモジュールと同じエアーフロー方向にする必要があります。

運用中にファンモジュールを交換する必要があり、上記条件が満たされていない場合は、必要なモジュールが入手できるまで、交換する必要のあるファンモジュールをシャーシ内に残し、設計上のエアーフローを確保します。

手順

ステップ1 次のようにして、交換する必要があるファンモジュールを取り外します。

- 互いにファンモジュールのハンドルの2つの色付きの側面を押し、ハンドルを引いてモジュールをシャーシの外側にスライドさせます。



1	ハンドルの両方の色付きスライドを内側に押します。	2	側面を内側に抑えている間に、シャーシからモジュールを取り外すために、ハンドルを引きます。
---	--------------------------	---	--

ステップ2 次のステップに従って、取り外したファントレイを2分以内に交換してシャットダウンを回避します。

- 交換ファンモジュールを梱包材から取り出して、静電気防止面の上に置きます。

モジュールのハンドルを持ち、背面の電気コネクタには触れないでください。また、電気コネクタを保護するために、シャーシ内部の電気コネクタ以外への接触は避けてください。

- b) シャーシに対して正しいファンモジュールであることを確認します。正しいファンモジュールには、次の部品番号のが付けられています。

- UCS-FAN-6664 (ポート側排気エアーフロー方向で、青色のストライプ)

(注)

新しいファンモジュールのエアーフロー方向は、すでにシャーシに取り付けられている他のファンおよびAC電源モジュールのエアーフロー方向と一致させてください。ポート側排気エアーフローは青色のカラーリングで示されます。

- c) ファンモジュールを空きファンスロットの前に置いて（電気コネクタが付いているモジュールの背面からスロットに入るよう）、モジュールの前面がシャーシに接触するまでモジュールをシャーシに完全に押し込みます。最後の0.2インチ(0.5 cm)では、モジュールをよりしっかりと押してシャーシコネクタに慎重に取り付けます。しかしそれ以上動かない場合はモジュールを無理に押さないでください（過度な力によりコネクタが破損するおそれがあります）。

(注)

モジュールをスロットに完全に押し込むことができない場合は、モジュールをスロットから慎重に取り外し、電気コネクタが破損していないか確認します。破損している場合は、Cisco Technical Assistanceに連絡してください。破損がない場合は、この手順を繰り返してモジュールを再度取り付けます。

- d) STS LED が点灯し、グリーンになることを確認します。

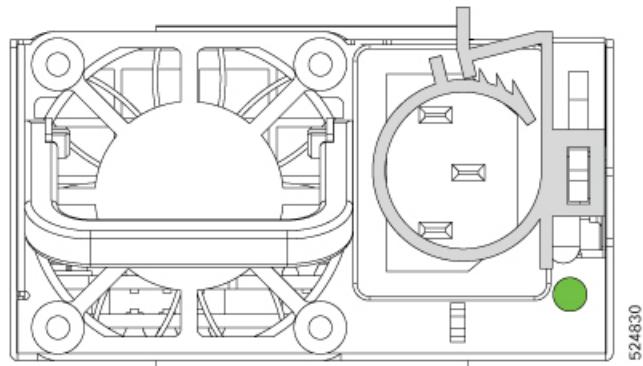
STS LED が点灯しない場合は、モジュールをシャーシから取り出し、シャーシ背面の電気コネクタを目で見て損傷の有無を確認します。破損している場合は、Cisco Technical Assistanceに連絡してください。破損がない場合は、前の手順を繰り返してモジュールを再度取り付けます。

電源モジュールの交換

ファブリックインターフェースには、冗長性のために2つの電源 (PSU) が必要です。電源モジュールはファブリックインターフェースの背面に垂直にスタックされます。上部のPSUにはPSU1という番号が付けられ、下部のPSUにはPSU2という番号が付けられます。

1つの電源モジュールで動作の必要電力を提供すると、新しい電源モジュールがシャーシ内の他のモジュールと同じエアーフロー方向である限り、動作中に他の電源モジュールを交換できます。

電源モジュールの取り外し



電源は、設置されている他の電源と同じ電源タイプの、サポートされた電源と置き換えます。さらに、電源へのエアフローの方向は、設置されたファンモジュールのエアフローの方向に一致するか準拠するしなければなりません。

電源モジュールの取り外し

ファブリックインターフェクトには、シャーシの背面からアクセス可能な2つの電源モジュールがあります。電源モジュールが冗長構成であるため、ファブリックインターフェクトはPSUを1台設置しただけでも動作可能です。ただし、両方のPSUを取り付けた状態でファブリックインターフェクトを動作させることがベストプラクティスです。PSUを取り外すか交換する場合は、PSUの冗長性を最大限保つため、できるだけ迅速に行ってください。

始める前に

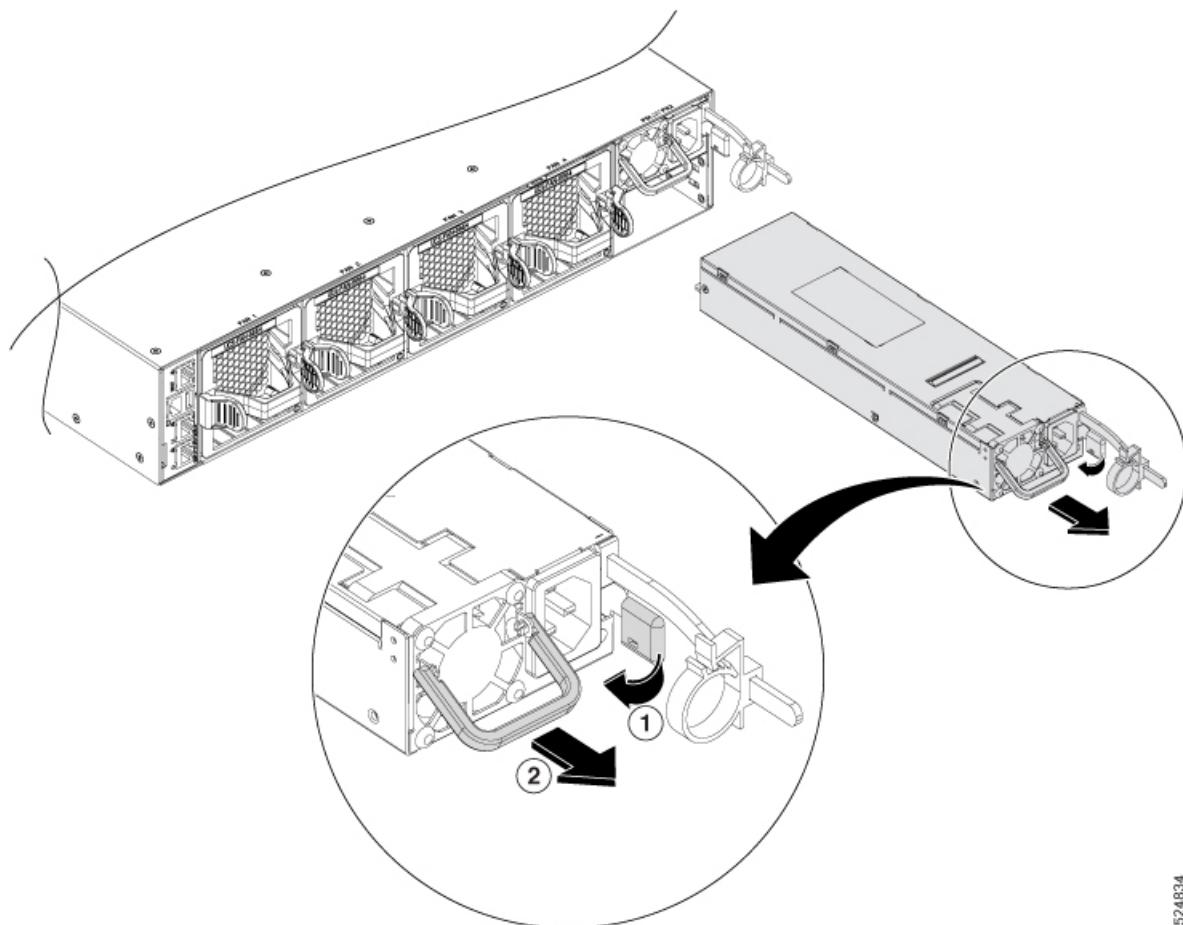
電源にはラッチとハンドルが付いています。シャーシからPSUを正しく取り外すには、両方を使用する必要があります。

手順

ステップ1 指でラッチを内側に押してラッチを外し、PSUをシャーシから取り外せるようにします。

ステップ2 同じ側の手で、リリースラッチが外れている間に、ハンドルを手前に引いてPSUをシャーシから最大限にスライドします。

ステップ3 PSUの下に片手を添えて電源装置の重量を支え、PSUをシャーシから完全に引き抜きます。



524834

次のタスク

準備ができたら、電源モジュールを取り付け、[AC 電源装置の取り付け（5 ページ）](#)に移動します。

AC 電源装置の取り付け

一方の電源モジュールがファブリックインターフェクトに電力を供給している間にもう一方の電源モジュールを交換できます。

始める前に

- 取り付ける電源モジュールは、同じファブリックインターフェクトに取り付けられているファントレイと同じエアーフローの方向を使用できる必要があります。同じファブリックインターフェクトに取り付けられている他の電源モジュールと同じタイプの電源を使用する必要があります。

Small Form Pluggable モジュールの取り付けと取り外し

- AC 電源は、交換用の電源モジュールで使用される電源ケーブルの届く範囲内にある必要があります。 $n+n$ 電源の冗長化を使用している場合は、シャーシに取り付けた電源モジュールごとに個別の電源が必要です。そうでない場合は、電源が 1 つだけ必要です。
- 交換用モジュールを取り付けるシャーシへのアース接続が存在する必要があります。通常、シャーシはアースされたラックとの金属間接続によってアースされます。シャーシをアースする必要がある場合は、[シャーシのアース接続](#) を参照してください。

手順

ステップ1 片手でモジュールの下に交換用の電源モジュールを持ち、もう一方の手でハンドルを持ち、リリースラッチが右側に来るよう電源モジュールを回転させます。電源モジュールの後端（電気接続の端）を、空いている電源モジュールスロットに合わせます。電源を注意深く空いているスロットに所定の位置でカチッと音がするまでスライドさせます。

（注）

電源モジュールが空きスロットに合わなかったら、モジュールを反転してから空きスロットに慎重に挿入します。

ステップ2 リリースラッチを使用せずに電源モジュールをスロットから引き出すようにして取り付け具合を確認します。

電源モジュールが動かなければ、スロットに確実に固定されています。電源モジュールが動く場合は、慎重に、カチッと音がするまでスロットに完全に押し込みます。

ステップ3 電源モジュール前面の電源コンセントに電源ケーブルを接続します。

ステップ4 電源コードのもう一方の端が電源モジュールに適した電源に接続されていることを確認します。

（注）

配電ユニットのコンセントの種類によっては、ファブリックインターフェクトをコンセントに接続するために、オプションのジャンパケーブルを設置します。

ステップ5 電源モジュールのLEDが緑色になっていることを確認して、電源モジュールが動作可能であることを確認します。

Small Form Pluggable モジュールの取り付けと取り外し

Small Form-factor Pluggable (SFP または SFP+) モジュールの取り付けまたは取り外しを行うには、次のタスクを実行してください。

始める前に

サポートされる SFP モジュールおよび SFP+ モジュールの一覧は、Cisco UCS 6600 シリーズ Fabric Interconnectcisco.comに掲載されているデータシートを参照してください。プラットフォームには、サポートされている SFP/SFP+ モジュールのみを使用してください。



警告 Statement 1008—Class 1 Laser Product

This product is a Class 1 laser product.



(注) インターフェイス モジュールで SFP を取り外してから挿入するまでの間は、少なくとも 30 秒間待機することを推奨します。この時間は、トランシーバソフトウェアの初期化とスタンバイ RSP の同期を可能にするため、推奨されます。これより短い時間で SFP を変更すると、トランシーバの初期化に問題が発生し、SFP をディセーブルになる可能性があります。

- SFP モジュールポートおよび SFP+ モジュールポートの埃よけプラグ、または光ファイバケーブルのゴム製キャップは、ケーブルを接続する準備が整うまでは取り外さないでください。これらのプラグおよびキャップは、モジュールポートやケーブルを汚れや周辺光から保護する役割を果たします。
- SFP モジュールおよび SFP+ モジュールの取り外しや取り付けを行うと、モジュールの耐用期間が短くなる可能性があります。SFP/SFP+ モジュールの取り外しや取り付けは、必要最低限にしてください。
- 静電気放電 (ESD) による破壊を防ぐため、ケーブルをファブリック インターコネクトや他の装置に接続する場合は、ボードおよびコンポーネントを正しい手順で取り扱うようにしてください。
- 複数のポートに複数の SFP モジュールおよび SFP+ モジュールを挿入するときは、各 SFP / SFP+ モジュールを挿入してから次のモジュールを挿入するまで 5 秒間待機します。これにより、ポートが error-disabled モードにならなくなります。同様に、ポートから SFP および SFP+ を取り外したときは、再度挿入する前に 5 秒間待機します。

手順

ステップ 1 手首に静電気防止用リストラップを着用して、ストラップの機器側をアース表面に接続します。

ステップ 2 SFP/SFP+ モジュールは、送信側 (TX) および受信側 (RX) の印があるほうが上面です。

SFP/SFP+ モジュールによっては、送信側と受信側 (TX と RX) の印の代わりに、接続の方向を示す矢印が付いている場合もあります。

ステップ 3 ベールクラス ラッチ付きの SFP/SFP+ モジュールの場合は、ロック解除の位置までラッチを開きます。

ステップ 4 モジュールをスロットの開口部に合わせて、コネクタをスロットの奥にはめ込みます。

Small Form Pluggable モジュールの取り付けと取り外し

ステップ5 モジュールにペールクラスプラッチが付いている場合は、ラッチを閉じて SFP/SFP+ モジュールを固定します。

ステップ6 SFP および SFP+ のダストプラグを取り外して保管します。

ステップ7 SFP ケーブルおよび SFP+ ケーブルを接続します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。